

風土記の丘の花だより²⁸¹

今、そしてこれから見られる植物(2025年7月12日)

「暑いなあ」、みなさん挨拶の第一声がこれです。言ったところで涼しくならないことは分かっていますが、つい口に出てしまう「暑いなあ」です。毎年同じ事を言っていますが、今年は去年よりも確かに暑いですね。



オニユリが咲きました。「鬼」という言葉を名前に付けるのがかわいそうなぐらい、私には素敵な花に思えます。この写真は旧谷山家住宅の庭で撮りましたが、万葉植物園などにも咲いています。大きく反り返ったオレンジ色の花びら、散りばめられた斑点。長く突き出た雄しべ、そして何より、うつむきがちに咲く姿、そのすべてが魅力的です。(まあ、個人的な感想にすぎませんが、)葉の付け根に黒っぽいものが付いていますが、それは「むかご」です。地面に落ちて芽を出し、株が増えます。



こんなに暑く、まさに夏本番というのに、アキノタムラソウが咲いています。この時期になると「どうして秋なんだろう？」といつも不思議に思います。花の色は薄紫で爽やかに見えて、秋の花のような印象を受けますが、どうしてでしょうね。写真ではドクダミやヤマノイモの葉がいっぱい、肝心のアキノタムラソウの葉はわかりづらいですね。花を目印にこの草を探し、ついでに葉も観察してみてください。花茎をさわると少べたべたします。それも実際に体験してみてください。



メハジキの花も咲いてきました。上のアキノタムラソウと同じシソ科の草です。草丈が高く、花は茎に沿って段々に付くので、写真も縦構図になってしまいました。小さくて見づらいかも知れませんが悪しからず。葉は深く切れ込んでいて、パッと見るとヨモギと見間違えそうですが、よく見ると周りの他の草とは容易に区別できます。名前の「目弾き・めはじき」は、これまで私が見た図鑑などでは「昔、子どもがこの草を目に当てて遊んだことによる」ということでしたが、私にはそれ以上の事は分かりませんでした。それで、満を持してウィキペディアを見てみると、どんな遊びなのかが書かれていました。興味のある方は、スマホでご覧ください。



草むらで目立つひとときわ大きな草、ヤブマオが細長い花を咲かせています。花と言っても百合のような華やかなものではありません。まるで白いひものようなものが何本かひよろひよろ出ているように見える程度のもので、このひものように見えるのが雌花で、雄花は少し下の方に咲きます。マオとは、よく見かける雑草カラムシの別名で、これは少し日陰に生えるので藪を付けてヤブマオです。松下